

物流の未来を探求

【愛知】NPO法人（特定非営利活動法人）の日本物流研究グループ（堀田佳秀理事長）は8日、名古屋市で設立会見を行った。「物流の未来を探求する」をテーマに掲げ、全国の若手トラック運送事業経営者らが立ち上げた。

若手中心に新しい活動

人材育成、先進的な取り組み

同NPO法人は1月6日、中部トラック総合研修センター（現愛ト協中部トラック総合研修センター）物流大学講座の修了生らが中心となり設立された。

人材育成、先進的な取り組みの調査・研究、国内外の物流企業の視察などを行い、物流業界の「プラットフォーム」になることが目的。メンバーは16人で、年内に100～150人規模への拡大を目指す。

役員は堀田理事長（朝日運輸、名古屋市港区）のほか、副理事長に阿部光記氏（サンコー、栃木県日光市）、理事に鈴木陽介氏（遠州西濃運輸、浜松市東区）

および岡本佳樹氏（タカツノ運輸、三重県四日市市）、監事には中部研修センター元専務の安藤小四郎氏がそれぞれ就任した。



「常識にとらわれない活動を」と堀田理事長

また、教育・研究活動などをサポートする顧問として、同志社大学大学院の浜矩子教授、神奈川大学の中

田信哉教授ら有識者も名を連ねている。

会見で、堀田氏は「フェイスブック（F.B.）の創業者マーク・ザッカーバーグ氏は27歳で世界有数の企業家になった。当NPOも若手中心で、業界の常識にとらわれず新しい活動をしていきたい。まずは、人材育成が第一で、有識者や企業経営者を呼び、有意義な講演を開催したい。東南アジアを中心に海外事情の視察も計画している」と述べた。

物流事業の社会的価値を広く理解してもらうため、一般向けの活動にも注力。安全や環境の取り組みをPRするほか、一般ドライバ

ーにも役立つ危険予知トレーニング、高校生や大学生を対象にした「物流教室」などを実施する。

「『大型トラックは怖い』というイメージを払拭（ふっしょく）したい。学生に身近なコンビニエンスストアの物流を紹介し、仕事に興味を持ってもらえれ

ば、将来の人材確保にもつながる」と堀田氏。

年2回の総会と講習会、隔月の研修会に加え、運行管理者試験などの資格講習も行う。第1回の公式行事として3月27日、浜氏を講師に招き、名古屋市で設立記念講演会を開催する。

（星野 誠）